

# 数学的な見方・考え方の働かせ方を

## 振り返ることができる児童の育成

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 理数・自然科学系（数学）

田中 康規

本研究は、多くの児童が問題解決で数学的な見方・考え方を十分に働かせることができているのではないかという課題意識を背景に、その実態改善を目指した指導の手立てを検討することを研究目的に設定した。先行研究の検討と予備実践の反省から、「単元導入における見方・考え方のキーワード化」、「単元内の授業におけるキーワード化した見方・考え方の意識化とそれらがどこでどのように働いていたのかの振り返り場面での確認」、「単元終末における単元全体を振り返る授業の設定とそこでの見方・考え方の整理・反省」の3つを指導の手立てとし、授業後の振り返りの記述に基づき、その有効性を検証した。授業後の振り返りでキーワードを記述することができただけでなく、どのような見方・考え方を、いつ・どこで・どのように働かせたのかを振り返ることができる児童も存在した。また、単元終末の授業では、多くの児童が、キーワードの板書がなくても、過去の授業で登場したキーワードを記述することもできていた。こうした結果を踏まえると、本研究における指導の手立ては、数学的な見方・考え方の働かせ方を振り返ることができる児童の育成のために一定程度有効であったと考えられる。